科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
成人看護学概論	1年後期	1	30	（看護師として10年）

科目のねらい

成人期にある対象と家族の特徴を理解するとともに、成人を取り巻く社会や保健医療システム、家族形態や機能、文化的背景、社会福祉制度の動向などを踏まえたうえで、対象と家族に必要な看護のアプローチの理論や方法を学習し、この後学習する成人看護学の科目に共通の基礎的知識を習得する。

到達目標

１．成人期にある対象の身体的・精神的・社会的側面を把握し、対象の特徴を総合的に理解する。
２．成人の健康の現状と動向を理解するとともに、健康な生活を維持・増進するために必要な看護の役割を理解する。
３．成人期にある人々の様々な価値観、個別性及び社会的存在に関心を深め、成人期における看護の特徴を理解する。

DPとの関連

◎2.人を尊重し、思いやりの心を持って行動することができる。

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	成人の定義、青年期の身体的・心理的・社会的特徴を説明できる。	成人看護学を学ぶ目的と意義、「成人」の定義、成人期の区分と各期の特徴、発達課題について（青年期）	講義	
2	壮年期・向老期の身体的・心理的・社会的特徴を説明できる。	成人期の区分と各期の特徴、発達課題について（壮年期・向老期）	講義	
3	エリクソン、ハヴィガーストの理論を適応することができる。	事例演習（青年期・壮年期）を通して、理論を適応しGWをする	講義	
4	成人保健に関する衛生統計を比較することができる。①	成人保健の動向として、総人口、年齢別人口、将来推計人口、世帯構成・世帯数について知ることができる。	講義	
5	成人保険に関する衛生統計を比較することができる。②	成人の保険の傾向をとらえ、死亡の動向、有訴者の状況・通院者の状況、受療率、入院期間について知ることができる	講義	
6	現代の成人の生活習慣と健康日本21を関連づけて述べることができる①	成人の生活習慣の傾向をとらえ、健康障害との関連について 生活習慣病の予防に関する保健医療政策（健康日本21/第2次）について	講義	
7			講義	
8	生活習慣病の予防と対策（特定健康診査・特定保健指導・がん対策等）を述べることができる	成人と生活習慣と健康問題の関連について 生活と健康を守る保健・医療・福祉システムについて がん対策基本法について	講義	
9	職業に起因する健康障害、ストレスの関連する健康障害について述べることができる。	職業と健康問題、社会的な問題について。 ストレスの定義、ストレスに関する健康障害、ストレスコーピングについて	講義	
10	ヘルスプロモーション、保健信念モデル理論について理解する。	ヘルスプロモーションの定義、施策の変遷、予防の概念について 成人の健康行動を促進する、成人の教育理論（アンドラゴジー）について	講義	
11	生体侵襲理論を適応させ、急性期状態にある対象の状態を説明することができる	生体侵襲理論とは、侵襲的治療を受ける患者の看護について	講義	
12	ストレスコーピング理論、フィンクの危機モデルを適応させることができる。	急性期の対象の心理的側面を理解を深め、看護援助の方向性について	講義	
13	生活機能障害を有する対象、慢性的な経過をたどる対象の状態を説明することができる。	障害を持ちながらの生活とリハビリテーションについて 障害受容、家族・患者への支援について	講義	
14	エンパワメント、自己決定への支援について述べることができる。	自己効力理論を事例に適応させることができる 慢性的揺らぎの再調整を促す看護、慢性病患者への看護について	講義	
15	成人期における最期を支える看護について述べることができる	最期の時を迎える人々を取り巻く環境についてと、その家族についての看護について	講義	

受講上の注意	関連科目
積極的な姿勢で講義に臨むこと。 レポート等の課題提出は、提出期限を守る。	心理学・公衆衛生

事前および事後学習

指定した教科書を事前に読んで予習をする。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
当日の内容については配布するプリントを読んで復習する。

成績評価の方法

出席状況、授業態度、課題レポート、定期試験で総合的に判断する。

教科書・参考書・その他の教材

『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学[1]』（医学書院）

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
成人看護学方法論Ⅰ	1年後期	1	30	(看護師として25年) (看護師として12年)

科目のねらい

脳神経機能障害・運動機能障害が日常生活に及ぼす影響を理解し、早期からの機能訓練を意識した看護を学ぶ。

到達目標

1. 各機能障害が生活に与える影響を理解することができる。
2. 各機能の検査時の看護を理解することができる。
3. 各機能障害に行われる治療に伴う看護を理解することができる。
4. 各機能障害の経過に応じた看護を理解することができる。
5. 各機能障害をもつ患者の苦痛を理解することができる。

DPとの関連

◎3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	脳・神経疾患患者の特徴と看護の役割を述べることができる	脳・神経機能障害のある患者の看護(1) 医療の動向と看護、患者の特徴、看護の役割、疾患の経過と看護	講義	
2	検査・治療を受ける患者の看護について述べることができる	脳・神経機能障害のある患者の看護(2) 検査・治療に伴う看護（脳血管造影、意識・麻痺レベルの観察）	講義	
3	脳・神経疾患における症状の観察とアセスメントを学び、対象に対する具体的援助方法を述べることができる。	脳・神経機能障害のある患者の看護(3) 主要症状に対する患者の看護①（運動麻痺、嚥下障害）	講義	
4		脳・神経機能障害のある患者の看護(4) 主要症状に対する患者の看護②（言語障害、失行・失認、高次機能障害）	講義	
5	主な疾患の看護を理解し援助方法を述べることができる。	脳・神経機能障害のある患者の看護(5) 疾患を持つ患者の看護①（脳卒中）	講義	
6		脳・神経機能障害のある患者の看護(6) 疾患を持つ患者の看護②（頭部外傷、腫瘍）	講義	
7	手術を受ける患者の看護を理解し、援助方法を述べることができる	脳・神経機能障害のある患者の看護(7) 手術を受ける患者の看護（脳動脈瘤、出血、脳梗塞）	講義	
8	運動器疾患患者の特徴と看護の役割を述べることができる	運動機能障害のある患者の看護(1) 医療の動向と看護、患者の特徴、看護の役割、疾患の経過と看護	講義	
9	検査・治療を受ける患者の看護を理解することができる	運動機能障害のある患者の看護(２) 検査に伴う看護（ミエログラフィ・アルトログラフィー）	講義	
10		運動機能障害のある患者の看護(３) 治療・処置に伴う看護（薬物療法、ギブス固定、牽引療法）	講義	
11	運動器疾患における症状の観察とアセスメントを学び、対象に対する具体的援助方法を述べることができる。	運動機能障害のある患者の看護(４) 主要症状に対する患者の看護① （神経麻痺・循環障害とフォルクマン拘縮）	講義	
12		運動機能障害のある患者の看護(５) 主要症状に対する看護②（疼痛・出血・深部静脈血栓・褥瘡）	講義	
13	主な疾患の看護を理解し援助方法を述べることができる。	運動機能障害のある患者の看護(6) 疾患を持つ患者の看護（変形性股関節症、椎間板ヘルニア、骨折）	講義	
14	日常生活援助のための基本的技術を理解することができる	運動機能障害のある患者の看護(7) 援助のための知識・技術（日常生活援助、良肢位、排泄管理）	講義	
15	手術を受ける患者の看護を理解し、援助方法を述べることができる	運動機能障害のある患者の看護(8) 手術を受ける患者の看護（大腿骨頸部骨折）	講義	

受講上の注意	関連科目
解剖生理や専門基礎分野で学習した機能障害の知識と共に、専門分野Ⅰで学習した日常生活援助技術を復習して講義に臨む。	解剖生理学Ⅰ　病理学　薬理学　治療論　病態論Ⅰ 臨床看護総論　看護基本技術Ⅱ 生活援助技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ　診療補助技術Ⅰ・Ⅱ

事前および事後学習

指定した教科書を事前に読んで予習をする。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
当日の内容については配布プリントを読んで復習をする。

成績評価の方法

終講試験（90%）
小テスト, 授業態度, 出席状況（10%）

教科書・参考書・その他の教材

『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学[10]、[7]』（医学書院）

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
成人看護学方法論Ⅱ	2年前期	1	30	(看護師として27年) (看護師として21年)

科目のねらい

呼吸・循環機能障害は、発症直後の救命処置から、再発予防や生活の再構築が目指せるようサポートが必要であることを理解し、呼吸機能障害・循環機能障害に対する検査・治療・処置に伴う看護を学ぶ。

到達目標

1. 各機能障害が生活に与える影響を理解することができる。
2. 各機能の検査時の看護を理解することができる。
3. 各機能障害に行われる治療に伴う看護を理解することができる。
4. 各機能障害の経過に応じた看護を理解することができる。
5. 各機能障害をもつ患者の苦痛を理解することができる。

DPとの関連

◎3.看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	呼吸器疾患患者の特徴と看護の役割を述べることができる	呼吸機能障害のある患者の看護(1) 医療の動向と看護、患者の特徴、看護の役割、疾患の経過と看護	講義	
2	検査・治療を受ける患者の看護を理解することができる	呼吸機能障害のある患者の看護(2) 検査・治療に伴う看護（気管支鏡・胸腔穿刺・胸腔ドレナージ）	講義	
3	呼吸器疾患における症状の観察とアセスメントを学び、対象に対する具体的援助方法を述べることができる。	呼吸機能障害のある患者の看護(3) 主要症状に対する患者の看護①（咳嗽・喀痰・血痰・喀血）	講義	
4		呼吸機能障害のある患者の看護(4) 主要症状に対する患者の看護②（胸痛・呼吸困難・チアノーゼ）	講義	
5	主な疾患の看護を理解し援助方法を述べることができる。	呼吸機能障害のある患者の看護(5) 疾患を持つ患者の看護①（肺がん・気胸）	講義	
6		呼吸機能障害のある患者の看護(6) 疾患を持つ患者の看護②（COPD・気管支喘息・肺炎慢性呼吸不全）	講義	
7			講義	
8	循環器疾患患者の特徴と看護の役割を述べることができる	循環機能障害のある患者の看護(1) 医療の動向と看護、患者の特徴、看護の役割、疾患の経過と看護	講義	
9	検査治療を受ける患者の看護を理解することができる	循環機能障害のある患者の看護(2) 検査・治療に伴う看護①（心電図・心臓カテーテル）	講義	
10		循環機能障害のある患者の看護(2) 検査・治療に伴う看護②（薬物療法時の看護と指導）	講義	
11	循環器疾患における症状の観察とアセスメントを学び、対象に対する具体的援助方法を述べることができる。	循環機能障害のある患者の看護(3) 主要症状に対する患者の看護①（胸痛・動悸・浮腫・呼吸困難）	講義	
12		循環機能障害のある患者の看護(4) 主要症状に対する患者の看護②（チアノーゼ・倦怠感・失神）	講義	
13	主な疾患の看護を理解し援助方法を述べることができる。	循環機能障害のある患者の看護(1) 疾患をもつ患者の看護①（虚血性心疾患）	講義	
14		循環機能障害のある患者の看護(2) 疾患を持つ患者の看護②（解離性大動脈）	講義	
15		循環機能障害のある患者の看護(3) 疾患を持つ患者の看護③（心不全）	講義	

受講上の注意	関連科目
1年次の解剖生理学、病理学、病態論、検査と治療とリハビリテーションで学習した内容の復習、関連づけをしながら授業を受けること。	解剖生理学Ⅰ　病理学　微生物学　薬理学　治療論 病態論Ⅱ　　臨床看護総論　看護基本技術Ⅱ 生活援助技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ　診療補助技術Ⅰ・Ⅱ

事前および事後学習

指定した教科書を事前に読んで予習をする。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
当日の内容については配布プリントを読んで復習をする。

成績評価の方法

終講試験（90%）
小テスト,授業態度,出席状況（10%）

教科書・参考書・その他の教材

『系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論』(医学書院)
『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学[2]、[3]』(医学書院)

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
成人看護学方法論Ⅲ	2年前期	1	30	（看護師として6年） （看護師として27年）

科目のねらい

消化機能障害・内分泌代謝機能障害は生涯にわたり運動療法や薬物療法など生活の管理を余儀なくされることを理解し、症状・検査・治療・処置に対する看護を学ぶ。

到達目標

1. 各機能障害が生活に与える影響を理解することができる。
2. 各機能の検査時の看護を理解することができる。
3. 各機能障害に行われる治療に伴う看護を理解することができる。
4. 各機能障害の経過に応じた看護を理解することができる。
5. 各機能障害をもつ患者の苦痛を理解することができる。

DPとの関連

◎3.看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	消化器疾患患者の特徴と看護の役割を述べることができる	消化機能障害のある患者の看護（1） 医療の動向と看護、患者の特徴、看護の役割、疾患の経過と看護	講義	
2	検査・治療を受ける患者の看護を理解することができる	消化機能障害のある患者の看護（2） 検査・治療に伴う看護（超音波検査、内視鏡検査、肝生検、造影検査）	講義	
3	消化器疾患における症状の観察とアセスメントを学び、対象に対する具体的援助方法を述べることができる	消化機能障害のある患者の看護（3） 主要症状に対する患者の看護①（嚥下困難、おくび・胸やけ、吐き気・嘔吐、腹痛）	講義	
4		消化機能障害のある患者の看護（4） 主要症状に対する患者の看護②（吐血・下血、下痢、便秘、腹部膨満）	講義	
5	主な疾患の看護を理解し援助方法を述べることができる	消化機能障害のある患者の看護（5） 疾患に対する患者の看護①（胃がん、大腸がん）	講義	
6		消化機能障害のある患者の看護（6） 疾患に対する患者の看護②（クローン病、潰瘍性大腸炎）	講義	
7		消化機能障害のある患者の看護（7） 疾患に対する患者の看護③（膵炎、慢性肝炎、肝硬変）		
8	内分泌・代謝疾患患者の特徴と看護の役割を述べることができる	内分泌・代謝機能障害のある患者の看護（1） 医療の動向と看護、患者の特徴、看護の役割、疾患の経過と看護	講義	
9	検査・治療を受ける患者の看護を理解することができる	内分泌・代謝機能障害のある患者の看護（2） 検査・治療に伴う看護（内分泌疾患の検査・代謝疾患の検査	講義	
10	内分泌・代謝疾患における症状の観察とアセスメントを学び、対象に対する具体的援助方法を述べることができる	内分泌・代謝機能障害のある患者の看護（3） 主要症状に対する患者の看護①（体重の変化、容貌、神経・筋）	講義	
11		内分泌・代謝機能障害のある患者の看護（4） 主要症状に対する患者の看護②（循環器、消化器、皮膚）	講義	
12	主な疾患の看護を理解し援助方法を述べることができる	内分泌・代謝機能障害のある患者の看護（5） 疾患に対する患者の看護①（甲状腺疾患、糖尿病）	講義	
13		内分泌・代謝機能障害のある患者の看護（6） 疾患に対する患者の看護②(2型糖尿病患者の事例を通しての教育的指導について,個人ワーク、グループワーク）	講義	
14		内分泌・代謝機能障害のある患者の看護（7） 疾患に対する患者の看護③(2型糖尿病患者の事例を通しての教育的指導について,グループワーク）	講義	
15	まとめ	発表およびまとめ	講義	

受講上の注意	関連科目
解剖生理や専門基礎分野で学習した機能障害の知識と共に、専門分野Ⅰで学習した日常生活援助技術を復習して講義に臨むこと。	解剖生理学Ⅱ　病理学　微生物学　薬理学　治療論 病態論Ⅲ　　臨床看護総論　看護基本技術Ⅱ 生活援助技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ　診療補助技術Ⅰ・Ⅱ

事前および事後学習

指定した教科書を事前に読んで予習をする。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
当日の内容については配布プリントを読んで復習する。

成績評価の方法

出席状況・授業態度、定期試験の結果など合わせて総合的に判断する。

教科書・参考書・その他の教材

系統看護学講座　消化器（成人看護学⑤）医学書院
系統看護学講座　内分泌・代謝（成人看護学⑥）医学書院

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
成人看護学方法論Ⅳ	2年前期	1	30	（看護師として26年） （看護師として12年）

科目のねらい

腎、泌尿器・排泄機能障害がライフスタイルの変更や長期化する治療経過をたどる特徴を持つことを理解し、検査・治療・処置に対する看護を学ぶ。

到達目標

1. 各機能障害が生活に与える影響を理解することができる。
2. 各機能の検査時の看護を理解することができる。
3. 各機能障害に行われる治療に伴う看護を理解することができる。
4. 各機能障害の経過に応じた看護を理解することができる。
5. 各機能障害をもつ患者の苦痛を理解することができる。

DPとの関連

◎3.看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	腎・泌尿器疾患患者の特徴と看護の役割を述べることができる	排泄機能障害のある患者の看護(1) 医療の動向と看護、患者の特徴、看護の役割、疾患の経過と看護	講義	
2	検査・治療を受ける患者の看護を理解することができる	排泄機能障害のある患者の看護(2) 検査に伴う看護 （尿検査・経尿道的操作および内視鏡検査・尿流動検査）	講義	
3	腎・泌尿器疾患における症状の観察とアセスメントを学び、対象に対する具体的援助方法を述べることができる。	排泄機能障害のある患者の看護(3) 主要症状に対する患者の看護① （尿の異常・排尿関連症状・浮腫・脱水・循環器系の異常尿毒症・疼痛・腫脹・腫瘤）	講義	
4	主な疾患の看護を理解し援助方法を述べることができる。	排泄機能障害のある患者の看護(4) 疾患を持つ患者の看護①（腎不全・AKI・CDK）	講義	
5		排泄機能障害のある患者の看護(5) 治療に伴う看護（透析療法を受ける患者の看護））	講義	
6		排泄機能障害のある患者の看護（6） 疾患を持つ患者の看護②（膀胱腫瘍・前立腺がん） 治療に伴う看護（手術療法・薬物療法）	講義	
7		排泄機能障害のある患者の看護（8） 疾患を持つ患者の看護③（過活動膀胱・腹圧性尿失禁）	講義	
8	血液・造血器疾患患者の特徴と看護の役割を述べることができる	血液・造血器機能障害のある患者の看護（1） 医療の動向と看護、患者の特徴、看護の役割、疾患の経過と看護	講義	
9	検査・治療を受ける患者の看護を理解することができる	血液・造血器機能障害のある患者の看護（2） 検査に伴う看護（末梢血検査・骨髄穿刺・リンパ節生検）	講義	
10	血液・造血器疾患における症状の観察とアセスメントを学び、対象に対する具体的援助方法を述べることができる。	血液・造血器機能障害のある患者の看護(3) 主要症状に対する患者の看護①（貧血・発熱・出血傾向）	講義	
11	主な疾患の看護を理解し援助方法を述べることができる。	血系・造血器機能障害のある患者の看護(4) 疾患を持つ患者の看護①（白血病・悪性リンパ腫） 治療に伴う看護（薬物療法・放射線療法）	講義	
12	自己免疫疾患患者の特徴と看護の役割を述べることができる	自己免疫疾患のある患者の看護（1） 医療の動向と看護、患者の特徴、看護の役割、疾患の経過と看護	講義	
13	主な疾患をもつ患者の看護を述べることができる。	自己免疫疾患のある患者の看護（1） 疾患をもつ患者の看護① （関節リウマチ・全身性エリテマトーデス）	講義	
14		自己免疫疾患のある患者の看護（2） 治療に対する看護（薬物療法・免疫療法）	講義	

15	まとめ			

受講上の注意	関連科目
1年次の解剖生理学、病理学、病態論、検査と治療とリハビリテーションで学習した内容の復習、関連づけをしながら授業を受けること。	解剖生理学Ⅱ　病理学　薬理学　治療論　病態論Ⅳ・Ⅴ　　臨床看護総論　看護基本技術Ⅱ 生活援助技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ　診療補助技術Ⅰ・Ⅱ

事前および事後学習

事前および事後学習
指定した教科書を事前に読んで予習をする。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。

成績評価の方法

終講試験（90%）
小テスト,授業態度,出席状況（10%）

教科書・参考書・その他の教材
『系統看護学講座　専門分野Ⅰ　臨床看護総論　（医学書院）
『系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論』（医学書院）

『系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論』（医学書院）
『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学[2]、[3]』（医学書院）

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
成人看護学方法論Ⅴ	2年後期	1	15	（看護師として10年）

科目

慢性疾患によって長期コントロールが必要な人に対して、教育的指導を主とした看護が実践に結び付くように、臨床判断能力を高められる事例展開を行う。

到達目標

1. 慢性期に必要なアセスメントの視点をもち、看護過程の展開ができる
2. 慢性期疾患をもつ患者のセルフマネジメントを支援する看護について理解することができる

DPとの関連

◎3. 看護の対象となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践ができる。

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	看護過程の展開ができる	看護過程の展開① 事例の情報をゴードンの機能的健康パターンの枠組みに整理し、記述できる	個人ワーク	
2		看護過程の展開② アセスメントの視点に沿った情報の整理・情報の解釈・分析の記述できる	講義 個人ワーク	
3		看護過程の展開③ 関連図、看護診断が記述できる 看護診断の優先順位の検討、根拠の記述ができる	グループワーク	
4		看護過程の展開④ 看護計画の立案ができる 実現可能な看護目標の検討と記述ができる	グループワーク	
5		看護過程の展開⑤ セルフマネジメントを支援する教育内容が抽出できる 教育指導案の作成ができる	グループワーク	
6		看護過程の展開⑥ 教育指導の準備ができる	グループワーク	
7	まとめ	発表会① 関連図、看護診断の優先順位および経過を発表できる 教育指導が実施できる	発表会	

受講上の注意

積極的な姿勢で学習に取り組むこと

関連科目

専門基礎科目全科　看護基本技術Ⅱ・Ⅲ　臨床看護総論　地域・在宅看護論　他

事前および事後学習

既習学習内容については、すべて事前学習し望む

成績評価の方法

所定の評価表を用いて評価する

教科書・参考書・その他の教材

『系統看護学講座　専門分野Ⅰ　臨床看護総論』（医学書院）
『系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅰ』（医学書院）
ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断（ヌーベルヒロカワ）
看護診断ハンドブック　（医学書院）
『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学　関連疾患によるもの』（医学書院）

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
成人看護学実習Ⅰ （健康管理）	２年後期	1	30	（看護師として10年）

科目のねらい

人々の健康を保持・増進を支援するヘルスプロモーション活動の概要や健康教育の実際を学ぶ。

到達目標

＜健康管理センター＞
疾病予防や早期発見のための検診の必要性を理解し、ヘルスプロモーション活動の概要や健康教育の実際を知ることができる。

DPとの関連

◎3. 看護の対象者となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践できる。

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	健康管理センター 第1日目	・実習オリエンテーション ・健康管理センターにおけるスケジュールに基づいた見学 ・健康教育・指導の見学	臨地実習	
2	健康管理センター 第2日目	・実習オリエンテーション ・健康管理センターにおけるスケジュールに基づいた見学 ・健康教育・指導の見学	臨地実習	
3	健康管理センター 第3日目	・健康管理センターにおけるスケジュールに基づいた見学 ・健康教育・指導の見学 ◆最終カンファレンス	臨地実習	
5	健康管理センター 第4日目	学内実習 ・振り返り ・まとめ	学内実習	

受講上の注意

・学内での授業、演習をしっかり受講し、事前準備を万全にして臨む
・積極的な態度で実習に臨む

関連科目

成人臨床看護論
成人看護方法論

事前および事後学習

既習の学習内容を復習する。特看護技術に関しては、臨床において実施可能なレベルまで事前学習しておく。

成績評価の方法

実習内容に基づく評価表を用いて評価する。

教科書・参考書・その他の教材

専門分野Ⅰ　臨床看護総論　（医学書院）
専門分野Ⅱ　成人看護学総論（医学書院）

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
成人看護学実習Ⅱ （急性期）	3年前期	2	90	（看護師として10年）

科目のねらい

生命の危機状態や周手術期にある人とその家族に対して、疾患・病態・治療を理解し、急性状態からの速やかな回復を支援する援助を学ぶ。

到達目標

急性期（急激な健康破定　健康破堤により生命の危機状態）にある対象者の特徴を理解し、状況に応じた援助を実践できる。

DPとの関連

◎3.看護の対象者となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践できる。

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	第1日目	【学内実習】 ・実習オリエンテーション ・術後患者の全身清拭、洗髪等の演習、受け持ち対象者の疾患・術式の学習	学内実習	
2	第2日目	・施設オリエンテーション（病院、病棟） ・受け持ち対象者への挨拶・決定、情報収集 ・対象者の治療・看護援助の見学	臨地実習	
3	第3日目	・看護師について、受け持ち患者の援助場面を見学する。 ・カルテ等より必要な情報を収集する。 ・受け持ち患者と関わり、患者の反応やそれに対する自分	臨地実習	
4	第4日目	・手術中の看護：受け持ち患者の手術室内での手術・麻酔による影響および看護を見学し、術後の患者の身体的影響を考える。	臨地実習	
5	第5日目	・受け持ち患者の全体像をもとに、援助が必要な看護問題を考え、看護目標・看護計画を立案する。 ・対象者の治療・病棟スケジュールに基づいた看護援助の見学および実施。	臨地実習	
6	第6日目	・アセスメントカンファレンス：関連図を踏まえて看護計画について話し合い、よりよい看護実践につなげる。 ・日々の実習の中で看護計画の実践・評価・修正を行う。	臨地実習	
7	第7日目	・受け持ち患者の看護実践や看護場面の見学から、術後の回復状態に応じた日常生活援助、セルフケアを促進させる援助方法の実際、退院後の生活に対する支援の実際を経験し、急性期～回復期における看護を学ぶ。	臨地実習	
8	第8日目	・受け持ち患者の看護実践や看護場面の見学から、術後の回復状態に応じた日常生活援助、セルフケアを促進させる援助方法の実際、退院後の生活に対する支援の実際を経験し、急性期～回復期における看護を学ぶ。	臨地実習	
9	第9日目	・受け持ち患者の看護実践や看護場面の見学から、術後の回復状態に応じた日常生活援助、セルフケアを促進させる援助方法の実際、退院後の生活に対する支援の実際を経験し、急性期～回復期における看護を学ぶ。	臨地実習	
10	第10日目	◆最終カンファレンス	臨地実習	
10	第11日目	学びの共有	学内実習	
10	第12日目	学びの共有	学内実習	

受講上の注意

・学内での授業、演習をしっかり受講し、事前準備を万 全にして臨む
・積極的な態度で実習に臨む

関連科目

成人臨床看護論
成人看護方法論

事前および事後学習

既習の学習内容を復習する。特看護技術に関しては、臨床において実施可能なレベルまで事前学習しておく。

成績評価の方法

実習内容に基づく評価表を用いて評価する。

教科書・参考書・その他の教材

・臨床外科看護総論（医学書院）　　・よくわかる周手術期看護（Gakken）、講義資料
・系統看護学講座　成人看護学②③⑤⑦⑨⑩（医学書院）

科目名	開講時期	単位	時間数	担当者
成人看護学実習Ⅲ （慢性期）	3年前期	2	90	（看護師として10年）

科目のねらい

病気と共に生きていく人とその家族に対して、看護過程の展開を通して、生涯にわたって疾患や障害をマネジメントしＱＯＬを向上させるための援助を学ぶ。

到達目標

健康障害について理解し、生活に及ぼす影響を考えながら、対象のセルフケア能力を高める看護を実践できる
病とともによりよく生きることを支援する看護が実践できる

DPとの関連

◎3.看護の対象者となる人々の健康上の課題に対し、科学的根拠に基づく知識・技術を習得し、看護実践できる。

授業計画

回	目標	学習内容	方法	担当
1	1日目（月）	病院・病棟オリエンテーション、受け持ち患者情報収集、看護援助見学、一部実施	臨地実習	
2	2日目（火）	看護援助の見学・一部実施、情報収集	臨地実習	
3	3日目（水）	看護援助の見学・一部実施、情報収集・整理・分析・全体関連図 看護診断の明確化、アセスメント検討会	臨地実習	
4	4日目（木）	看護計画立案（指導案含む）	臨地実習	
5	5日目（金）	看護計画立案用紙（指導案含む）提出と発表	臨地実習	
6	6日目（月）	対象者の情報の追加・看護計画に基づいた看護援助の実施	臨地実習	
7	7日目（火）	対象者の情報の追加・看護計画に基づいた看護援助の実施	臨地実習	
8	8日目（水）	対象者の情報の追加・看護計画に基づいた看護援助の実施	臨地実習	
9	9日目（木）	対象者の情報の追加・看護計画に基づいた看護援助の実施	臨地実習	
10	10日目（金）	対象者の情報の追加・看護計画に基づいた看護援助の実施　最終カンファレンス	臨地実習	
11	11日目（月）学内実習	学びの共有　GW	学内実習	
12	12日目（火）学内実習	学びの共有　GW	学内実習	

受講上の注意

・能動的学習形態である
・積極的な姿勢で実習に取り組む

関連科目

成人看護学概論

事前および事後学習

既習学習の内容についてはすべて事前に学習し実施する

成績評価の方法

実習内容に基づく評価票を用いて評価する

教科書・参考書・その他の教材

・系統看護学講座　成人看護学②③⑤⑦⑨⑩（医学書院）